

令和6年第10回教育委員会定例会 議事録

1. 教育長あいさつ

10月1日は、桜江町との合併20周年、江津市政施行70周年記念式典が執り行われました。委員の皆様には、ご参加いただき、ありがとうございました。大きな節目に当たり、「小さくとも一層キラリと光るまちごうつ」をめざし、次の10年20年その先の世代の発展につながるよう、持続可能な市政運営の実現に向けて、学校教育、社会教育、人権教育の分野で、江津市の発展にご協力いただきますようお願いします。

さて、学習やスポーツ、読書や芸術に最適な季節になってきました。小中学校では、2学期がスタートして1か月。大きな学校行事である体育祭や運動会が行われているところ。子どもたちにとっては日常の学校生活での成長と行事での成長、両方が車の両輪のように大切だと考えています。教職員にとっても同様です。本日も3点ほどお伝えします。

①不登校児童生徒への支援及びいじめへの対応について

不登校及び不登校傾向の児童生徒への支援について、各学校では日頃より丁寧に実践していただいていると認識しています。一人一人の背景を把握していただいているが、理由や原因も様々。「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、自らの成長や進路を主体的に捉え、社会的自立をめざす取組を願っている。

いじめについては、どの学校で重大事態が起こるか分からない。軽微ないじめ・からかいだと思っても、初期対応が不適切であれば、被害児童生徒は深く傷つき、立ち直りにくくなる。教職員全員の共通理解の下、保護者の協力を得て、関係機関・専門機関と連携し、対応に当たってもらいたい。併せて、この度文科省より「いじめ重大事態の調査に関するガイドライン」改訂が行われた。児童生徒にとって、安全・安心な居場所となる学校であるために組織的に取り組んでもらうように改めて依頼。

②学校だよりを通して感じたことについて

9月号では多くの学校で全国学調の結果分析などを掲載。保護者や地域の方々へ配布された学校だよりに掲載された内容で大変感心したものもあった。保護者や地域住民に知らせることが第一目的ですが、子どもたちにも教職員にも伝わること。多くの学校が課題であると認識していたことは、児童生徒の動画等の視聴時間の多さ。保護者と課題の共有をしていただき、家族で話し合い、ルールを決めて、実践すること。特定の週間だけでなく、年間を通じて実践していただければ生活習慣自体も改善されると思う。

こうした学力育成及び授業改善に関して、ぜひ各学校で主体性をもって自走していただきたい。教育委員会としてはそのサポートをします。学校教育目標実現のために、子どもたちにどんな力をつけるために授業を改善するのか、教職員組織を挙げて具体的に何をどのように行うか、年度の折り返しの今、改めて進めていただきたい。

③服務規律の確保について

校内での研修等を計画的に実施していただいていると思う。学年学校行事の多い2学期は、不祥事も起きやすくなる。特に、児童生徒と教職員間のトラブルが心配される。実効的な校内研修を進めていただくこと、教職員一人ひとりのストレスやプレッシャーにも配慮をお願いしました。

2. 教育長の報告 （別紙 教育長勤務報告のとおり）

3. 議事録署名議員

○教育長

本日の署名委員は、岡田委員と天倉委員をお願いします。

4. 議決事項

- ・議案第25号 指定校変更（校区外就学許可）について（新1年生分）※3件

＜委員からの質疑等＞

・指定校変更後、徒歩で通学する児童の登校班については、まだ1年生なので、安全のために配慮が必要。

〈3件とも全委員一致で承認〉

5. 報告事項

① 1学期末の生徒指導関係調査結果について

○小田指導主事より説明

＜委員からの質疑等＞

○佐々木委員

不登校についてはやはり人間関係が原因であって、無気力だという学校の判断もあるが、その原因について、教員は見極める力をつけてもらいたい。

小学校の中学年と中学校2年生については、必ず転換期が来る時期なので、その辺を踏まえたアドバイスが必要。

生徒同士もだが、子どもと教員もこの時期は必ず対立が起きる。対立が起きるのは成長の過程にあるという捉え方をしていけないといけない。その辺りを押さえておかないとこの問題は平行線をたどってしまう。この時期の対応を間違えると、長引いていくと感じている。

○福田委員

令和3年から不登校が増えているようだが、コロナの影響はあるのか。

○小田指導主事

令和3年は学校が休校になったりしたので価値観や生活様式も変わってきたということも原因としてあるかもしれない。詳細な分析はできていないので分からない。

○福田委員

アンケートの中で、家族の介護や看護をしている頻度が高い子どもがいるが、ヤングケアラーに該当するのではないか。

○小田指導主事

気になる子どもについては、学校で家庭状況についての聞き取りをしてもらっている。そこで気になるケースについては、子育て支援課と連携をとって、家庭状況の確認をしているが、今のところヤングケアラーに該当するようなものはなかった。今後も注視していかないとはいけない。

○福田委員

やはり注意をしていく必要があると思う。

○小田指導主事

いじめについては、学校が聞き取りをした結果、やはり加害者側と被害者側の言い分が違うケースもある。その場合被害を訴えているというところにしっかり寄り添った対応ができているかが大きい。保護者の話をしっかり丁寧に聞き取りをしていくことが大事。

○岡田委員

先生は一応解決を見たというような状況をつくっても、被害者と加害者の当事者はずっとわだかまりを持ったままのケースもある。

○小田指導主事

事実確認が大前提にあるので、学校は、色々な聞き取りをし、何があったかということを正確に保護者に伝えていくのが一番。思いや心情があるので、そこにもしっかり耳を傾けていかないとはいけない。

加害者になった子も何らかの思いや、そこに至るまでの経緯が必ずあるので、そこをしっかりと学校が丁寧に保護者に伝えていくことで、加害者の保護者の方も自分の子もしっかり学校が大切にしてくれているという思いが伝わればよい。

○教育長

加害者、被害者、いずれにしてもどちらも大事にしていかなければいけない。加害者として言ってしまった、やってしまった子もいろんな事情を踏まえてやっているといるという点では、どちらも被害者かもしれない。

○天倉委員

いじめの対応については、初期対応が一番大事だということは分かるが、教員が1人で対応するのは限界があるので、校内で、複数での対応をする必要がある。また、校内だけでは限界があるので、状況が分かった段階で、教育委員会や指導主事、第三者に相談をかけられるようにハードルを低くしておかないといけない。初期対応というのはすごくよく分かるが、それが難しいと感じる。日頃から相談しやすい関係づくりをし、情報交換することが大切。

○教育長

学校でいじめが認知されて対応したが、困難なケースのときには、基本的に指導主事の方に連絡が入っている。

○小田指導主事

学校の中で報告する時に、特に若い先生の中には報告が遅れるケースがある。複数で対応しないといけないケースでも、その先生の判断で対応して、事が大きくなるケースもある。とにかく、軽微なことでも校内で、教頭先生や学年主任の先生に報告をして、複数人でそれを上げていくかを検討する必要がある。担任の中で、大丈夫だと思っていても事が大きくなっていくケースがあることを学校管理職の方にもお伝えして、なるべくしっかり学校の中で共有してもらうように話をしていきたい。

○天倉委員

生徒指導が大変な学校に勤務すると、教頭先生の前に教員が並び、すぐに相談をかけられないケースもある。例えば教頭だけが聞くのではなく、生徒指導主任や学年主任が聞くなど色々と工夫が必要。

○佐々木委員

当然初期対応の問題もあるが、やはりそこには子どもたちの人間関係の他に、それを聞いた先生との人間関係や親との人間関係など非常に複雑である。基本的には丁寧に子どもの言い分や親の言い分を聞く。それから、記録をきちんと取っておくことがすごく大事な気がする。偏った聞き方をしないように気を付けないといけない。

○教育長

市教委としても敷居を低くして、学校からの相談を受けやすい体制でありたいと思う。

○岡田委員

学校に相談しても返しが無いケースがあるようだが。

○小田指導主事

保護者とやりとりした後学校から何らかの連絡をするのは信頼関係を築く上で、大事なことです。そこは改めて学校に伝えていきたい。

○教育長

今日、委員の方から出た意見は、校長会及び教頭会で管理職の先生方に伝えていきたい。

○福田委員

もちろん子どもが一番ではあるが、先生が生徒対応で病むこともあるので、先生のフォローも必要だと思う。教員が減ってきている中で、せっかく教員を志してなった方が辞めるようなことがないようにしてほしい。

○教育長

幸い今市内では、担任の先生方を中心に、保護者と学校とのトラブルで、休み傾向にある方は、いない。校長先生や教頭先生方がしっかり寄り添って支えていただいていると思う。教育センター

など教職員も相談する場所があるので、そういったところも紹介しながら、貴重な人材ですので、がんばってもらいたい。

② 仮称西部統合小学校建設事業について

○大石課長より説明

- ・仮称西部統合小学校統合準備委員会設置要綱
10 月中に第 1 回目の準備会を開催予定。
- ・仮称西部統合小学校 配置図

③ 江津市中学校部活動地域連携検討協議会設置要綱の制定について

○大石課長より説明

部活動の地域連携・地域移行について、検討協議会を立ち上げて議論をしていく予定。その設置要綱を策定した。第 1 回目の会議を 10/29 に開催する予定。

<委員からの質疑等>

○福田委員

地域クラブはお金がかかり、寄付を集めるケースもあるようだ。
市として補助をしていくのか。

○大石課長

何でもかんでも認めるとお金がかかってしまう。
今後協議会の中で議論していきたい。

○教育長

部活動の地域連携・地域移行は、子どもたちがやりたいことに取り組めるようなスポーツ文化芸術活動の機会を確保することがまず 1 つの大きな目標。

○岡田委員

今後地域クラブに移行すると、新しい種目をやりたいという声もあがるのでは。

○教育長

たしかに神楽やダンスや e スポーツなどもやりたいという生徒も出てくるかもしれない。
子どもたちが主体的に楽しめる環境も必要だと思う。
協議会の中でしっかり議論をして、検討をしていきたい。

④ 9 月市議会定例会の概要について

(令和 6 年第 3 回江津市議会定例会一般質問の概要について)

○大石課長・大賀課長から説明

- ・学校教育課関係 6 議員より質問あり
- ・社会教育課関係 3 議員より質問あり

6. その他

① 市民スポーツフェスタについて

- ・10 月 14 日 (月) スポーツの日を開催

② 江津市文化祭について

- ・11 月 2 日 (土) ～11 月 3 日 (日) に江津市総合市民センターで開催
- ・江津市文化協会創立 40 周年の記念式典も実施

【追 加】

留守番電話について

○天倉委員

江津中が2学期から留守番電話を導入したと思うが、保護者からの反応はどうか。

○大石課長

9月17日に導入し、まだ2週間程度なので、詳しく状況は聞いていない。

次回の定例会でお話しできるようにしたい。

指定校変更について

○天倉委員

今回は4月から小学校に入学する児童の申請があったが、中学校に入学する児童からの申請は出ていないのか。

○大石課長

4月から中学校に入学する生徒からの申請は今のところ出ていない。

午前11時58分終了